

羽高現役部活紹介 第6回 柔道部

活動方針は「文武両道を実践&柔道を正しく知る」

私は平成 22 年 4 月より羽咋高校で勤務し 10 年目となります。第 53 回卒でもあり現在 36 歳です。

柔道場には約 300 名の卒業生の名前が書かれた木札が掲げられています。柔道部の長い歴史を感じさせるその光景はまさに圧巻です。過去には北信越大会の優勝者、全国大会の出場者など立派な成績を収められた先輩を多数輩出しています。残念ながら私が監督を務めている間は先輩方のような立派な成績は残せていません。それどころか部員 0 人の学年が 3 年続き、おとしは 1 年間の休部状態となり、廃部の危機に陥りました。しかし、昨年度 4 名、今年度 6 名が柔道場の門をたたき、現在は 1、2 年生 10 人で活動しています。1 名が中学全国大会 5 位、3 名が中学県大会 3 位であり、3 年生不在の中、4 月には能登地区 10 連覇中の日本航空高校を撃破することができました。今後、進学校でありながら県大会上位進出が十分に見込めます。

を利用し、広大なキャンパスを散策することによって生徒の進路意識は大きく向上しています。このように様々な方法で文武両道の達成に向けてアプローチしています。また、正しい柔道を習得するための活動も怠りません。部員同士で自主的に技の研究、開発、修練できる時間を多く確保しています。時には私も知らないような技が練習中に飛び出すこともあり、どうやら DVD や動画サイトを利用し、自宅での個人研究も行っているようです。「さすが羽高生!」と感心させられます。こうして自ら習得した技術は大人に教え込まれた技術に比べ、個人での応用が効きやすく、他校の選手よりも成長のスピードを実感できます。その研究心が勉学にも良い影響を与えています。



柔道部 顧問
山本 和宏

柔道部の活動方針は「文武両道を実践する」「柔道を正しく知る」の 2 点です。強豪高校だけでなく金沢大学に出稽古する機会を多く設けています。羽高生の多くが目標としている金大生に混ざって学食

私は県立学校の職員である以上、転勤が付き物です。勤務 10 年目ということもあり、現在の部員を卒業まで指導することができないかもしれません。しかし、現在の部員の様子だと、万が一そのような事になって自分たちでしっかり頑張れそうです。今は「今後に期待できる」状態ですが、近いうちに「期待通りの結果」を関東同窓会の皆様にも新聞でお届けできるよう、部員一丸となり頑張ります。応援よろしくをお願いします。



歴代師範、顧問をはじめ名立たる卒業生名が居並ぶ銘板・木札。
多くの近親の方や友人・知人のお名前があるのでは…。



では、2学年から「陸・海・空」と別れるのですが、ここでも父の影響（父の帝国海軍の経歴）で「海」を選択。その後海上自衛隊へと進んだ訳です。

自衛隊を退職し、某民間会社に再就職し現在に至っています。今年は古希を迎えます。2人の息子も各々家庭を持ち、今は42年間連れ添った妻に、日々感謝しながら暮らしております。孫は2人、今春3人目が誕生の予定です。申し分のない人生だと思っています。

高校時代における父との永久の別れが余りにも強烈であり、そこで父が残した言葉により、私の人生の方向付けが出来たのだと思っています。



私の故郷は羽咋

渡 憲次 高21 羽咋・旭

私は今年5月で69歳になります。生まれてから18年間は羽咋市旭町で過ごし、4年間は、群馬県高崎市立経済大学で生活し、その後47年間はアパレル関連企業にお世話になり、千葉県に住み東京へ通勤する生活です。「たった18年間」それも記憶にない時間も含まれますが、羽咋及び羽咋高校時代が一番懐かしく思われます。中でも夏の甲子園出場をかけたの若狭高校との決勝戦、無念にも敗戦。悔し涙を流した思い出が一番です。

また、羽咋高校関東同窓会では、故古池元会長はじめ沢山の人々にお世話になり、感謝の気持ちで一杯です。お返しはなかなかできないですが、出来る限りご協力していきたいと思っています。

最後になりましたが、羽咋高校関東同窓会並びに羽咋高校の益々のご発展を祈念しております。



輪島キリコ会館にて

会員ネットワーク

近況報告をして頂き、次の人にリレーすることで、会いたい人 知りたい友の消息 など 会員の交流促進に役立てたいと思います。



「人生を変えた父の一言」

本多 知幸 高20 羽咋・本

高校1年の夏の日、学校から帰ると台所で泣いている母が目にとまった。理由を尋ねると『父ちゃんの命が今年一杯持たない』と。わが家にとって、あまりにも突然で残酷な宣言でした。その時初めて癌だということを知りました。大腸癌でした。私自身、以後父を見る目が変わりました。父に精一杯何かをしようと。父と居る時間を大切にしよう。そんなある日、それまで私の進路について一言も話したことのなかった父が『防衛大学校へ行ったらいいな』と言ったのです。その時はあまり気にもとめていなかった。その後、本人の懸命な癌との闘い、家族の必至な看護も空しく、翌年4月、42歳の若さで亡くなりました。



鋳金屋から立ち上げ鑿泉・水道工事と事業を拡大して、いよいよこれからといった矢先に病魔に侵され、あっという間に逝ってしまった父。亡くなって、その存在感・偉大さをヒシヒシと感じました。それまで、明確に大学進学を考えたこともなかったが、死の直前に父が言った『防衛大学校』を目指そう。それが父への恩返しだと強く意識しました。幸いにも同じクラスに防衛大学校を目指すS君がいて、彼から多大な情報や支援を得たりして、なんとか合格することが出来ました。防大